

## 系統豚「トチギL」交雑利用に関する試験

### —系統豚の組合せ試験—

小池達也、中村真弓<sup>1</sup>、野沢久夫<sup>2</sup>、阿部泰男<sup>3</sup>、塚原均<sup>4</sup>、本沢延介<sup>5</sup>、

芝田周平、高橋一郎<sup>6</sup>、大久保彰夫<sup>6</sup>、中島芳郎<sup>7</sup>、上野昌司<sup>8</sup>

<sup>1</sup>栃木県北家畜保健衛生所

<sup>2</sup>栃木県農務部畜産振興課

<sup>3</sup>栃木県農務部経済流通課

<sup>4</sup>栃木県河内農業振興事務所

<sup>5</sup>栃木県農務部経営技術課

<sup>6</sup>栃木県中央家畜保健衛生所

<sup>7</sup>栃木県南家畜保健衛生所

<sup>8</sup>栃木県酪農試験場

**要約** 本県で作出した系統豚「トチギL」と相性の良い大ヨークシャー種系統豚及びデュロック種系統豚を選定し、より良い三元交雑肉豚（LWD）を生産するため、大ヨークシャー種5系統、デュロック種3系統についての組合せ試験を行った。

大ヨークシャー種については、ナガラ系は産子数が多く、育成率も高く、発育性も優れていた。タテヤマ系は産子数は少ないものの、育成率は高く、子豚の体重は重く、発育成績は優れており、ハム割合が高い傾向を示した。イワテハヤチネW系は産次が進むにつれ産子数が多くなり、子豚の増体も良くなるなど、成績が安定する傾向にあり、枝肉は歩留が高く、ロース断面積が大きかった。ゼンノーW-01系は産子数は少ないが子豚の体重は重く、発育は良好で、枝肉は長さはないものの、ロース断面積が大きかった。ゼンノーW-02系は産子数、離乳頭数とも多く、子豚の体重も重かった。発育は5系統の中で最も優れており、枝肉は長さはあるものの、ロース断面積は小さい傾向を示した。

デュロック種については、発育性はサクラ201系が最も優れていた。サクラ201系の枝肉は長さがあり、歩留が高く、ロース断面積は3系統の中で最も大きかった。市場でも高い評価を受けることがわかった。サクラ203系はDGは840g以上であり優良な発育を示し、枝肉は各項目とも平均的な値を示したが、去勢でやや厚脂の傾向が見られた。市場においては上物率は低かったが、ほとんどが中物以上の成績であった。ゼンノーD-01系は去勢でDGが900gを上回るなど、発育性が優れており、枝肉は長さがあり、ハム割合が大きい傾向を示した。市場でも去勢、雌ともに高い評価を受けることがわかった。

以上のことから、各形質の成績のトータルバランスや導入ルートの確立度を総合的に判断し、大ヨークシャー種についてはイワテハヤチネW、ゼンノーW-01及びゼンノーW-02の3系統を、デュロック種についてはサクラ201、サクラ203及びゼンノーD-01の3系統を推奨することとした。

### 緒言

高品質で斉一性の高い肉豚を安定的に生産供給するためには、系統間交配による三元交雑肉豚生産システムを経営内に導入することが有効な一手段とされている。しかし、一品種内においても複数の系統が存在し、体型や産肉性等の能力に違いがみられる。そこで、系統間交配の能力を最大限に発揮させるために、他品種系統豚との三元交配方式を確立することが不可欠である。

近年、各機関において数多くの系統豚が作出され、その利用が盛んになってきており、本県においても、ランドレース種系統豚「トチギL」が平成4年度に完成した。次年度からは県内養豚経営農場への配付が始まり、「トチギL」を基礎豚とした三元交雑肉豚生産

のため利用されている。しかし「トチギL」にどのような雄を組み合わせれば高品質で斉一性のある肉豚を生産できるのかははっきり分かっていない状況にある。そこで、「トチギL」と相性の良い大ヨークシャー種系統豚及びデュロック種系統豚を選定するために試験を行った。

### 材料及び方法

1. 試験期間  
平成5年度～平成15年度
2. 供試豚  
ランドレース種 : トチギL  
大ヨークシャー種 : ナガラヨーク (岐阜県)、

タテヤマヨーク (富山県)、  
イワテハヤチネW (岩手県)  
ゼンノーW-01 (全農)、  
ゼンノーW-02 (全農)  
デュロック種 : サクラ201 (国)、サクラ203 (国)、  
ゼンノーD-01 (全農)

### 3. 飼養管理

供試したLW母豚は1群7~8頭の群飼とし、自然発情で交配適期の雌豚に人工授精を行った。LW及びLWDの肉豚は、体重30kgから1豚房2頭飼いで、不断給餌、不断飲水とし、体重が105kgもしくは110kgまで肥育後、当場の枝肉調査室でと殺解体、または公設と畜場に出荷した。その他一般飼養管理は当場の慣行法に準じた。給与した飼料の種類及び給与方法を表1に示した。

表1 飼料の種類及び給与方法

区分	種類	TDN (%)	DCP (%)	給与期間	給与方法
子豚	子豚用前期	84.0	18.0	7日齢~10kg	不断給餌
	子豚用後期	81.0	16.0	10~30kg	〃
育成豚	前期用	78.0	13.5	30~90kg	〃
	種豚用	72.0	12.0	90kg以降	制限給餌
試験豚	検定用	74.5	12.0	30~105, 110 kg	不断給餌

## 4. 調査項目

### (1) LWの繁殖成績

「トチギL」と大ヨークシャー種を交配して生産したLW (以下〇〇系) にデュロック種を交配し、LWDを生産した。LWDを分娩したLWの繁殖成績については、それぞれ産子数、哺乳開始頭数、離乳頭数、育成率、一腹平均生時体重・離乳体重・60日齢体重を調査した。

### (2) LWの発育成績・産肉成績

① 発育成績：出荷到達日齢、1日平均増体重 (以下DG) を調査した。供試豚はと殺後24時間冷蔵庫内で放冷し、と体調査を行った。

② 産肉成績：豚産肉能力検定後代検定<sup>1)</sup>に準じ、背脂肪厚、ロース断面積などを調査した。なお、カタとロースの切断部位は第5第6胸椎間とした。

### (3) LWDの発育成績・産肉成績・市場出荷成績

(1) で生産したLWにデュロック種を交配してLWD (以下〇〇系) を生産した。

① 発育成績：上記(2)に同じ

② 産肉成績：上記(2)に同じ

③ 市場出荷成績：供試豚を公設と畜場に出荷して、背脂肪厚、枝肉格付について調査した。

## 結果及び考察

### 1. LWの繁殖成績

表2にLW5系統のLWD分娩時における繁殖成績を示した。

産次ごとに5系統を比較すると、初産については、ナガラ系がタテヤマ系と比較して産子数、哺乳開始頭数、離乳頭数ともに多い傾向を示した。タテヤマ系以外の4系統は、産子数が9~12頭、離乳頭数が9~11頭と、いずれも初産としては良好な成績であった。第2産については、5系統間に差は認められず、各系統とも良好な繁殖成績を示した。特にナガラ系及びゼンノーW-02系では、産子数が13頭以上であり、繁殖性の高さが伺えた。第3産以降は、ゼンノーW-02系を除く4系統で比較した。第3産については、離乳時平均体重でナガラ系が劣る結果であったが、60日齢体重では差が認められなかった。第4産については、生産頭数ではタテヤマ系を除く3系統が、生時体重ではゼンノーW-01系を除く3系統が、それぞれ良好な値を示した。

初産時と集計値の比較では、生時体重など集計値が劣る項目もあるが、生産頭数では5系統とも初産時と同等以上の値を示し、産次を重ねるにつれ成績が安定する傾向があることが示唆された。

以上のことから、繁殖性に関しては、供試した大ヨークシャー種系統豚5系統すべてが、「トチギL」と相性の良い組合せであると思われる。

表2 LW繁殖成績

供試豚	例数	産次	産子数 (頭)	哺乳開始 頭数 (頭)	離乳頭数 (頭)	育成率 (%)	一腹平均		
							生時体重 (kg)	離乳時体重 (kg)	60日齢体重 (kg)
LW <sub>1</sub>	7	1	12.43	11.86	11.57	96.72	1.40	6.00	22.64
			±1.84	±1.73	±1.50	±5.23	±0.14	±0.78	±3.07
	2	2	13.50	11.50	11.50	100.00	1.47	7.11	25.02
			±1.50	±0.50	±0.50	±0.00	±0.15	±0.80	±1.89
	2	3	12.50	11.50	10.50	92.86	1.52	5.98	24.36
±1.50			±2.50	±1.50	±7.14	±0.02	±0.51	±1.74	
2	4	14.50	12.50	11.50	93.33	1.47	6.46	22.40	
		±1.50	±2.50	±1.50	±6.67	±0.07	±0.04	±3.82	
13	集計		12.92	11.85	11.38	96.72	1.40	6.00	22.64
			±1.86	±1.92	±1.44	±5.23	±0.14	±0.78	±3.07
LW <sub>2</sub>	8	1	7.75	7.13	7.00	98.96	1.56	7.26	28.24
			±2.86	±2.47	±2.24	±2.76	±0.20	±1.21	±3.29
	3	2	11.00	11.00	11.00	100.00	1.52	6.17	24.04
			±2.16	±2.16	±2.16	±0.00	±0.04	±1.17	±4.63
	3	3	11.33	11.00	10.67	97.22	1.52	6.11	23.34
±0.94			±0.82	±0.47	±3.93	±0.19	±0.60	±0.28	
2	4	8.50	8.00	8.00	100.00	1.51	6.26	25.26	
		±0.50	±1.00	±1.00	±0.00	±0.00	±0.33	±1.75	
16	集計		9.13	8.69	8.56	98.96	1.54	6.72	26.16
			±2.78	±2.73	±2.60	±2.76	±0.16	±1.17	±3.80
LW <sub>3</sub>	8	1	9.75	9.63	8.75	92.04	1.47	6.39	23.38
			±3.63	±3.60	±3.15	±7.11	±0.19	±1.11	±4.33
	3	2	11.67	11.67	11.33	97.22	1.51	6.46	23.29
			±0.47	±0.47	±0.47	±3.93	±0.24	±0.57	±0.86
	2	3	13.50	12.00	10.50	87.76	1.44	6.29	23.41
±0.50			±1.00	±0.50	±3.15	±0.12	±0.15	±0.16	
2	4	14.00	11.00	10.00	90.83	1.48	6.92	24.38	
		±2.00	±1.00	±1.00	±0.83	±0.02	±1.00	±1.95	
15	集計		11.14	10.57	9.71	92.52	1.48	6.36	23.29
			±3.36	±2.97	±2.66	±6.46	±0.19	±0.89	±3.31
LW <sub>4</sub>	6	1	10.00	9.00	8.50	95.24	1.35	6.03	25.20
			±2.71	±3.79	±3.59	±4.83	±0.09	±0.42	±2.90
	4	2	11.25	10.75	10.25	96.67	1.56	6.66	24.07
			±4.21	±3.77	±3.27	±5.77	±0.08	±1.52	±3.45
	2	3	10.00	9.50	9.50	100.00	1.58	6.75	28.26
±2.00			±1.50	±1.50	±0.00	±0.21	±0.80	±1.27	
1	4	15.00	15.00	14.00	93.33	1.29	5.10	18.77	
		—	—	—	—	—	—	—	
13	集計		10.77	10.08	9.62	96.27	1.45	6.26	24.83
			±3.35	±3.73	±3.43	±4.93	±0.16	±1.05	±3.56
LW <sub>5</sub>	11	1	11.18	10.18	10.09	99.39	1.42	6.54	24.69
			±2.75	±2.86	±2.70	±2.01	±0.18	±0.82	±3.71
	9	2	13.78	12.67	12.11	96.11	1.65	7.48	24.94
±2.11			±1.80	±1.36	±6.61	±0.14	±0.75	±1.74	
20	集計		12.35	11.30	11.00	97.92	1.52	6.96	24.80
			±2.76	±2.70	±2.38	±4.83	±0.20	±0.91	±2.92

- L:トチギL W<sub>1</sub>:ナガラヨーク W<sub>2</sub>:タテヤマヨーク W<sub>3</sub>:イワテハヤチネW W<sub>4</sub>:ゼンノーW-01 W<sub>5</sub>:ゼンノーW-02
2. LW発育成績 はできないが、各系統とも到達日齢が160日前後、D  
表3にLWの発育成績を示した。 Gが800g以上の値を示すなど良好な発育を示した。  
ゼンノーW-02系のみ110kgと殺のため単純な比較

表3 LW 発育成績

供試豚	性	調査頭数(頭)	105kg到達日齢	1日平均増体重 (g:30~105kg)
LW <sub>1</sub>	去勢	10	163.7±19.0	810.8±11.8
LW <sub>2</sub>	去勢	17	155.4±11.1	828.2±7.5
LW <sub>3</sub>	去勢	19	160.3±10.5	797.3±7.5
LW <sub>4</sub>	去勢	19	155.4±9.2	843.8±71.4
LW <sub>5</sub>	去勢	22	161.3±9.2 <sup>*1</sup>	886.9±75.8 <sup>*2</sup>

L:トチギL, W<sub>1</sub>:ナガラヨーク, W<sub>2</sub>:タテヤマヨーク, W<sub>3</sub>:イワテハヤチネWW<sub>4</sub>:ゼンノーW-01, W<sub>5</sub>:ゼンノーW-02

\*1:110kg到達日齢 \*2:30~110kg

## 3. LW産肉成績

表4にLWの産肉成績を示した。なお、ゼンノーW-02系のみ110kgと殺である。

各系統の特徴は、ゼンノーW-02系で背腰長Ⅱが長く、イワテハヤチネW系及びゼンノーW-01系でロー

ス断面積が大きい傾向を示した。背脂肪厚は、ナガラ系がやや厚脂の傾向にあり、ハム割合は、イワテハヤチネW系が優れていた。

表4 LW 産肉成績

供試豚	性	頭数	枝肉歩留(%)	背腰長Ⅱ (cm)	背脂肪厚(cm) <sup>*1</sup>	ハム割合(%)	ロース断面積 (cm <sup>2</sup> )
LW <sub>1</sub>	去勢	10	65.2±4.8	68.2±1.7	3.3±0.2	32.8±0.8	22.6±2.0
LW <sub>2</sub>	去勢	17	73.0±1.0	68.1±2.3	3.0±0.1	33.2±1.4	22.5±2.1
LW <sub>3</sub>	去勢	19	73.0±1.0	67.8±2.0	2.9±0.4	33.6±1.2	24.1±3.5
LW <sub>4</sub>	去勢	19	68.1±3.0	66.7±1.6	3.2±0.4	32.3±1.2	24.1±2.7
LW <sub>5</sub>	去勢	22	73.0±1.0	70.6±2.3	3.1±0.3	32.3±1.2	20.8±3.3

L:トチギL, W<sub>1</sub>:ナガラヨーク, W<sub>2</sub>:タテヤマヨーク, W<sub>3</sub>:イワテハヤチネWW<sub>4</sub>:ゼンノーW-01, W<sub>5</sub>:ゼンノーW-02

\*1:カタ、セ、コシの平均値

## 4. LWD発育成績

表5にLWDの発育成績を示した。なお、とめ雄にサクラ201を供したLWDについては、105kg及び110kgと殺時データの両方を記載した。

サクラ201を交配して生産されるLWDは、110kg到達日齢が155日前後、DGが950g程度で3系統の中で最も良好な発育を示した。去勢の中にはDGが1000gをこえる個体もあり、サクラ201の能力の高さとともに、LWとの相性の良さも示唆された。

サクラ203を交配して生産されるLWDは、110kg到達日齢が160日前後で最も遅く、ばらつきも大きかった。DGは、去勢でも900g以下であり、統計的な

有意差はないが、発育については、やや劣る傾向がみられた。去勢と雌を比較すると、3系統中、性差が最も少なかった。

ゼンノーD-01を交配して生産されるLWDは、発育がサクラ203より良く、DGも去勢で900gをこえていた。

このように、3系統とも110kg到達日齢は、150日から170日を示しており、栃木県家畜改良増殖目標における平成22年度の目標数値である185日を上回っていた。さらに、DGは840gを越えており、どの系統も良好な発育をすることがわかった。現在、農家の出荷日齢の現状は180~200日程度であり、これら3

系統の持つ発育能力は経営改善にも十分寄与できる ものと思われた。

表5 LWD 発育成績

供試豚	性	調査頭数(頭)	105kg到達日齢	1日平均増体重 (g:30~105kg)
LWD <sub>1</sub>	去勢	20	152.3± 8.1	913.5±55.5
	雌	18	157.8± 9.9	880.9±91.9
供試豚	性	調査頭数(頭)	110kg到達日齢	1日平均増体重 (g:30~110kg)
LWD <sub>1</sub>	去勢	10	153.6± 7.0	986.8±101.6
	雌	7	156.4± 4.6	925.7± 68.7
LWD <sub>2</sub>	去勢	11	159.7±10.0	894.6± 34.2
	雌	13	167.5±14.8	847.5± 98.9
LWD <sub>3</sub>	去勢	24	156.2± 9.0	927.0± 72.6
	雌	26	162.9± 8.1	874.1± 60.7

L:トチギL, W:イワテハヤチネW 及びゼンノーW-01,ゼンノーW-02

D<sub>1</sub>:サクラ201, D<sub>2</sub>:サクラ203, D<sub>3</sub>:ゼンノーD-01

#### 5. LWD産肉成績

表6にLWDの産肉成績を示した。なお、とめ雄にサクラ201を供したLWDについては、105kg及び110kgと殺時データの両方を記載した。

サクラ201を交配して生産されるLWDは、枝肉歩留は高く、ロース断面積が3系統の中で最も大きく、背腰長Ⅱは最も長かった。去勢と雌を比較すると、雌が、枝肉の長さ、ハム割合、ロース断面積ともに優れていた。

サクラ203を交配して生産されるLWDは、各項目とも平均的な値を示したが、去勢でやや厚脂の傾向が見られた。去勢と雌との比較では、サクラ201と同様、雌がハム割合、ロース断面積ともに優れていた。

ゼンノーD-01を交配して生産されるLWDは、背脂肪厚は適度であり、雌ではハム割合は3系統の中で最も高かった。さらに、他の2系統と同様、雌が去勢よりも優れた成績を示した。

このように、産肉性に関して3系統それぞれの特徴が見られたが、どのデュロック種もほぼ同等の優れた能力を持ち、トチギL由来LWとの相性も良いことがわかった。しかし、3系統とも去勢が雌に比べて厚脂傾向にあり、ハム割合が低く、ロース断面積が小さい傾向が認められた。これらについては、去勢と雌の別飼いや去勢の制限給餌など、飼養管理に配慮することで、改善可能であると思われる。<sup>2)</sup>

表 6 LWD 産肉成績

供試豚	性	頭数	枝肉歩留(%)	背腰長 II (cm)	背脂肪厚(cm)* <sup>1</sup>	ハム割合(%)	ロース断面積 (cm <sup>2</sup> )
LWD <sub>1</sub>	去勢	12	71.0±1.3	66.4±2.1	3.3±0.2	32.1±1.5	24.0±2.1
	雌	12	72.2±1.3	66.4±2.1	3.0±0.2	33.1±1.5	28.0±2.1
LWD <sub>1</sub>	去勢	7	75.4±1.1	67.4±2.1	3.2±0.4	32.5±1.4	25.5±2.7
	雌	6	74.5±1.6	69.1±2.3	3.1±0.3	33.4±1.4	25.7±2.6
LWD <sub>2</sub>	去勢	8	73.0±1.0	67.1±0.8	3.4±0.5	31.7±1.4	24.0±2.1
	雌	9	72.5±0.8	68.4±2.4	3.1±0.3	32.6±1.2	25.2±1.6
LWD <sub>3</sub>	去勢	20	73.5±2.0	67.1±1.7	3.3±0.3	32.3±1.2	24.0±3.3
	雌	21	73.7±1.7	68.7±2.9	3.1±0.4	33.5±1.2	25.0±2.9

L:トチギL, W:イワテハヤチネW 及びゼンノーW-01,ゼンノーW-02

D<sub>1</sub>:サクラ 201, D<sub>2</sub>:サクラ 203, D<sub>3</sub>:ゼンノーD-01

\*1:カタ、セ、コシの平均値

## 6. LWD市場出荷成績

表 7 に LWD の市場出荷成績を示した。枝肉歩留は、ゼンノーD-01 系が高い傾向を示した。背脂肪厚については、3 系統の間に有意な差は認められなかったが、サクラ 203 系の去勢で厚脂の傾向を示した。上物率については、サクラ 203 系は去勢、雌と

もに低かったが、他の 2 系統は 60%以上となり、市場の格付においても高い評価を受けることがわかった。サクラ 203 系については、上物率は低いものの、ほとんどが中物以上の成績であり、3 系統とも推奨できると思われた。

表 7 LWD 市場出荷成績

供試豚	性	調査頭数 (頭)	枝肉歩留(%)	背脂肪厚(cm)	上物率(%)	中物以上率 (%)
LWD <sub>1</sub>	去勢	11	66.4±1.3	1.9±0.4	81.8	100
	雌	7	65.9±0.7	1.6±0.2	57.1	100
LWD <sub>2</sub>	去勢	3	68.0±0.9	2.1±0.4	0.0	100
	雌	4	67.2±0.5	1.6±0.1	50.0	75
LWD <sub>3</sub>	去勢	13	68.3±1.5	1.8±0.3	69.2	100
	雌	13	68.2±1.7	1.7±0.5	61.5	100

L:トチギL, W:イワテハヤチネW 及びゼンノーW-01,ゼンノーW-02

D<sub>1</sub>:サクラ 201, D<sub>2</sub>:サクラ 203, D<sub>3</sub>:ゼンノーD-01

## まとめ

系統豚「トチギL」と相性の良い系統豚を選定するため、大ヨークシャー種系統豚 5 系統、デュロック種系統豚 3 系統について試験を行った結果、次のような知見を得た。

## (1) 大ヨークシャー種

表 8 に大ヨークシャー種 5 系統の総合評価を示した。ナガラヨーク系 LW は、産子数が非常に多く育成率も高いため、離乳頭数は 11 頭以上と、良好な繁殖成績を示した。発育成績も DG が 800g 以上と良好であった。タテヤマヨーク系 LW は、産子数が他の系統と

比べると少ないが、育成率は高く、子豚の生時体重や60日齢体重も優れていた。発育成績も優れており、枝肉はハム割合が高い傾向を示した。イワテハヤチネW系LWは、産次が進むにつれ産子数が多くなるとともに、子豚の増体も良くなり、産次を重ねるにつれ成績が安定する傾向があった。枝肉は歩留が高く、ロース断面積が大きい傾向を示した。ゼンノーW-01系LWは、産子数はナガラ系、イワテハヤチネ系、ゼンノーW-02系に比べると少ないが、生時体重や60日齢体重は重かった。発育は良好で、枝肉の長さはないものの、

ロース断面積は大きかった。ゼンノーW-02系LWは産子数、離乳頭数ともに多く、さらに子豚の体重も重かった。発育は5系統の中で一番優れており、DGは880gを上回る良好な成績であった。枝肉は長さはあるものの、ロース断面積は小さい傾向を示した。

以上のことから、5系統とも「トチギL」と不的確な組合せはなく、繁殖性、発育性、産肉性等のトータルバランスや導入ルートの確立度からイワテハヤチネW及びゼンノーW-01、ゼンノーW-02の3系統が推奨できると思われた。

表8 大ヨークシャー種の総合評価

	ナガラヨーク	タテヤマ ヨーク	イワテハヤ チネW	ゼンノー W-01	ゼンノー W-02
(1) LW 母豚					
① 産子数・離乳頭数	◎	△	○	○	◎
② 育成率	◎	◎	○	◎	◎
③ 子豚の発育	○	◎	○	◎	◎
(2) LW 肉豚					
① 発育性	○	○	○	◎	◎
② 枝肉歩留	○	◎	◎	○	◎
③ 背脂肪の厚さ	○	◎	◎	○	◎
④ ハム割合	○	◎	◎	○	○
⑤ ロースの太さ	○	○	◎	◎	○

(2) デュロック種

表9にデュロック種3系統の総合評価を示した。

サクラ201系LWDは、発育性は去勢、雌ともにDGが900g以上となり、3系統の中で最も優れていた。枝肉は長さがあり、歩留は高く、ロース断面積が大きいなど3系統の中で最も良い成績であった。市場への出荷成績でも去勢は上物率80%以上となり、高い評価を受けることがわかった。

サクラ203系LWDは、発育性は他の2系統と比べるとやや劣る傾向が見られたが、DGは850g以上であり、良好な発育をすることがわかった。枝肉は各項目とも平均的な値を示したが、去勢でやや厚脂の傾向が見られた。市場出荷成績においては上物率は低かったが、ほとんどが中物以上の成績であった。

ゼンノーD-01系LWDは、発育性は去勢でDG

が900gを上回るなど優れていた。枝肉については長さはあり、背脂肪厚は適度で、ハム割合が多かった。市場出荷成績においては枝肉歩留が高い傾向を示し、上物率は去勢、雌ともに6割をこえ、高い評価を受けることがわかった。

以上のように、とめ雄として使用するデュロックの違いによってそれぞれ特徴のある肉豚が生産されることがわかった。さらに、発育成績及び産肉成績において、どのデュロック種もほぼ同等の優れた能力を持ち、トチギL由来LWとの相性の良さも示唆された。市場性についても各系統ともほとんどが中物以上の成績であり、市場においても高い評価を受けることがわかった。これらのことを考え合わせ、サクラ201、サクラ203及びゼンノーD-01の3系統とも推奨できると思われた。

表9 デュロック種の総合評価

	サクラ 201	サクラ 203	ゼンノーD-01
(1) LWD 発育性	◎	○	○
(2) LWD 産肉性			
① 枝肉歩留	◎	○	○
② 枝肉の長さ	○	○	○
③ 背脂肪の厚さ	○	○	○
④ ハム割合	◎	○	◎
⑤ ロースの太さ	◎	○	○
(3) LWD 市場出荷成績	◎	○	◎

### 文 献

- 1) 日本種豚登録協会.豚産肉能力検定後代検定実務書
- 2) 中央畜産会.日本飼養標準 豚:40-42.1998